

市民参加条例の検証に向けた意見交換会 vol.2 意見まとめ

<開催概要>

日 時 平成28年9月10日(土) 10時～11時30分

場 所 茅ヶ崎市役所 分庁舎6階 コミュニティホール

参加人数 7名

概 要 冒頭に市民参加条例の概要や、施行状況を説明した後、検証のために行っているアンケートやヒアリング、7月に開催した意見交換会の結果を説明した。その後、ワークショップ形式で、茅ヶ崎市における市民参加の4年後のあるべき姿やそのための方策について意見交換を行った。

【条例の認知度や参加経験について】

- ・市民にとって、市民参加をしたことの実感が持てないことや、仕組みが分かっていないということが問題である。
- ・成功事例のように、市民参加をしたことで起こった変化についてPRすることが重要。
- ・多くの市民意見を集めるための仕組みづくりが必要。
- ・まちぢから協議会等、地域の団体にも市民参加条例の周知が必要。
- ・まずは小さなコミュニティから知らせていく。
- ・義務教育の段階から、子どもに対して市民参加の意識を伝えていくことが重要。

【意見の取扱いについて】

- ・意見が丁寧に扱われているかどうか、市民と市との信頼関係に繋がる。
- ・市民参加をしたことで、参加した市民が満足する仕組みが必要。

【情報の発信について】

- ・紙媒体を求める人もいる。逆に、HP等を活用すべき対象もいる。回覧を読まない人や、学校からの通知であれば読んでいる人など、様々な考えの人がいる中で、相手に合わせた情報の発信が重要である。
- ・広報紙よりも、タウンニュースのような地域紙をよく読んでいる人が多い。
- ・j-com も活用できる。
- ・寒川町の広報紙のように、読みやすい、カラー刷り、冊子型を導入すべき。
- ・意見を聞こうとしている内容について、何を目的に聞こうとしているのか、変わることで市民にどう影響があるのかを明確にすべき。
- ・各分野で、横断的に情報共有や情報発信できるとよい。
- ・市民の関心を引くような情報の発信の仕方を考えるべき。

【職員の姿勢について】

- ・情報発信の段階も同様だが、相手の立場、受け手の立場に立って、説明や表現をすることが重要。

【パブリックコメント手続について】

- ・意見を出しても、何の反応もない担当課が存在する。
- ・昔は返信がそもそもなかったが、今は返信がある点は評価できる。
- ・パブコメの段階では、そこから意見によっては変わらない状態となっていることが多い。
- ・パブコメの際に出された情報が、大きく変わって条例案となっていることがある。

【審議会等について】

- ・公募委員を増やしてほしい。
- ・審議会に議案を出し、意見を聞くこと自体が市民参加である。
- ・公募市民でなくても、市民であることから、市民参加である。
- ・委員の構成が疑問。

【政策提案について】

- ・制度をしっかりPRすべき。

【市民参加全般について】

- ・信頼関係の構築が大切である。
- ・市民参加における8つの階梯の考え方を、職員が理解していることが必要である。